

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.16

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

大船渡エクステンションセンターが開所しました

平成25年4月3日、大船渡市役所に「岩手大学三陸復興推進機構大船渡エクステンションセンター」が開所しました。

大船渡エクステンションセンターは、釜石サテライト（平成23年10月設置）、久慈エクステンションセンター（平成24年4月設置）、宮古エクステンションセンター（平成24年10月設置）に次いで、気仙地区を担当とする4番目の活動拠点として、大船渡市役所の全面協力の下、設置されました。

大船渡市役所内で開催した開所式では、藤井克己岩手大学長と戸田公明大船渡市長との間で「大船渡エクステンションセンター設置に関する覚書」が締結された後、藤井学長から「大船渡エクステンションセンターを核として、気仙地区の復興支援活動に邁進していき



エクステンションセンター設置に関する覚書を締結する戸田市長（左）と藤井学長（右）

い」、戸田市長からは「大船渡市が進める起業化支援や観光分野について岩手大学の協力を得ながら取り組んでいきたい」との挨拶がありました。

また、三浦靖三陸水産研究センター長が、震災後からこれまでに取り組んできた岩手大学の水産分野の産学連携に関する事例を発表しました。

大船渡エクステンションセンターでは常駐する産学官連携コーディネーターが地域のニーズを収集するとともに、釜石サテライト、久慈及び宮古エクステンションセンター、関係自治体等と連携しながら復興支援活動を推進していく計画です。

大船渡エクステンションセンター連絡先

T022-8501 岩手県大船渡市盛岡字津野沢15番地 大船渡市役所商工港湾部内
担当コーディネーター：小山 電話 080-5745-9775
E-mail: ofunato@iwate-u.ac.jp

文部科学省 東日本大震災復興支援イベントに参加しました

東日本大震災からちょうど2年目の平成25年3月11日、文部科学省にて「東日本大震災復興支援イベント～教育・研究機関としてできること、そしてこれから～」が開催されました。文部科学省をはじめとする各関係機関が震災後2年にわたり取り組んできた復興支援の活動を紹介するとともに、被災地支援の風化を防ぎ、今後のさらなる支援へとつなげるという趣旨で開催された本イベントに、岩手大学も被災地大学として参加しました。

岩手大学は、日本初のペット専用移動診療車「ワンにゃん号」の展示・見学

のほか、岩手大学三陸復興推進機構が実施している、復興支援の取り組みをパネルで紹介しました。

岩手大学ブースには下村博文文部科学大臣や森口泰孝文部科学事務次官、近藤誠一文化庁長官も視察に訪れ、藤井克己岩手大学長と馬場剛理事兼事務局長、佐藤れえ子農学部附属動物病院長が取り組みの説明をしました。

当日は、国立大学、大学共同利用機関法人など54機関が参加し、会場には約2,000人が来場しました。岩手大学は、震災直後から掲げてきた「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」のスローガンのもと、今後もさらなる復興を目指して活動を行ってまいります。



3



4

3 岩手大学ブースを視察する森口文部科学事務次官 4 岩手大学ブースを視察する近藤文化庁長官



1



2

1 岩手大学ブースの様子

2 「ワンにゃん号」を視察する下村文部科学大臣

「三陸鉄道スマイルいわて盛駅」プロジェクトに参加しました

教育学部の煤孫康二准教授と芸術文化課程美術・デザインコースの学生グループが、三陸鉄道南リアス線 盛（さかり）駅-吉浜駅間の再開通日（平成25年4月3日）に「スマイルとうほくトレイン」の運行などの「三陸鉄道スマイルいわて盛駅」プロジェクトに参加しました。

「三陸鉄道スマイルいわて盛駅」プロジェクトは、東北の3つの新聞社（岩手日報社・河北新報社・福島民報社）が被災地に笑顔を広げ、日本中に東北の元気を発信していくために取り組んでいる「スマイルとうほくプロジェクト」の一環として実施されました。

学生スタッフは南リアス線再開通日にあわせて、三陸鉄道盛駅舎内と運行車輦内に、「スマイルとうほくプロジェクト」のシンボルであるひまわりをデコレートしました。

残念ながら再開通日当日は、雨模様でしたが、再開を心待ちにしていた住民の皆さんや全国の鉄道ファンに多数お越しいただきました。

また、学生スタッフは、来場者にメッセージカードを配り、三陸鉄道再開のお祝いのメッセージを記入してもらいました。

今後は、地域住民の方々と交流を行いながら、地元のニーズをくみ上げ、駅舎内の装飾やアートイベントなど、継続的に取り組んでいく計画です。

※南リアス線の吉浜（大船渡市）-釜石（釜石市）駅間の15キロと、北リアス線の小本（岩泉町）-田野畑（田野畑村）駅間の10.5キロは現在不通ですが、26年4月に運行を再開する予定です。

- 三陸鉄道株式会社公式サイト
<http://www.sanrikutetsudou.com/>
- スマイルとうほくプロジェクト公式サイト
<http://smile-tohoku.jp/>



「スマイルとうほくトレイン」が発車し、一息ついた煤孫准教授（左）と学生スタッフ。ここにも笑顔の花が咲きました

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が丸となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は、津波被害で発生した震災木くずのリサイクルを実施している林業・林産業復興支援班の取り組みの一例をご紹介します。

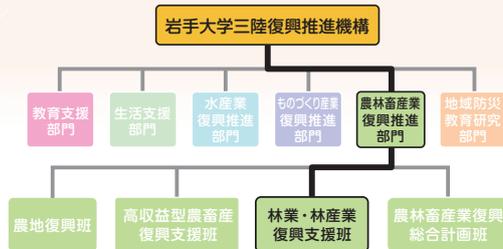
震災木くずのパーティクルボードへのリサイクル — “復興ボード” の生産と活用の支援—

岩手大学三陸復興推進機構 農林畜産復興推進部門 林業・林産業復興支援班
関野 登 (農学部 教授)

震災ガレキ処理に関する環境省マスタープランでは、平成26年3月末までに中間処理と最終処分完了を目指し、地元雇用とリサイクルの推進を重視しています。木くずの場合、パーティクルボード(PB)、ボイラー燃料、バイオマス発電へのリサイクルという指針が示され、岩手県の災害廃棄物処理実行計画では、PB工場がある宮古地区をリサイクル中核地域と位置付けました。その先駆けとなる形で、震災直後からスタートしたのが本プロジェクトです。岩手県立大学や宮古市の木材関連産業との連携のもと、岩手県および宮古市に対して震災木くずの分別回収とリサイクルを提言し、震災木くずを用いた“復興ボード”の生産と活用の支援を進めて参りました。

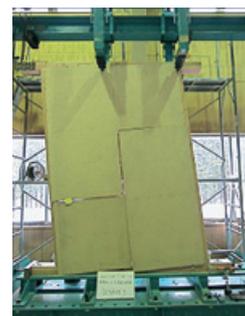


復興ボードを用いた仮設集会施設



本プロジェクトの目指すところは、①木くずのリサイクルによるガレキ処理の促進、②木材関連企業の復興に向けた課題抽出とその解決の支援、③“地域木材の供給+復興ボードの活用+地域工務店による施工”というパッケージによる復興住宅の供給支援などです。

岩手県沿岸で発生した震災木くずのうち、燃料やPB原料としてリサイクルしやすい“柱材・角材”は約24万トン発生しました。平成25年2月末現在で約半分が処理され、そのうち約7000トンが復興ボードに生まれ変わりました。この間、原料の放射線量チェック体制の整備や復興ボードを用いた仮設集会施設の建設支援などを行いました。さらに、仮設集会施設の建設で得たノウハウをもとに、宮古型復興住宅“ぬぐだまり”の建設支援へと発展しています。また、復興ボードを用いた復興住宅の耐震性能とその基礎データの収集など、学術面でも支援しています。今後、本格化する被災地の住宅再建に向けて、本プロジェクトが少しでもお役に立てば幸いです。



復興ボードを用いた床の耐震テスト

釜石サテライトだより

新しい三陸水産研究センターの完成とともに、4月から研究員がセンターに異動して来たことで、本格的に研究がスタートしました。

センターのある釜石市平田地区は、風が強い地域ですが、毎日、海を見ながら仕事ができ、夏は快適だろうなと思いつつ、新しい仕事に取り組んでいるところです。

最近の釜石サテライトの活動状況について報告します。

●釜石湾漁協の女性部活動への支援について

昨年、釜石湾漁協の女性部と意見交換を行う機会がありましたが、東日本大震災により商品開発などの女性部活動が中断しており、皆さんは再開の機会を見つけれずに悩んでいるようでした。

そこで、釜石サテライトでは、活動再開のきっかけとなるように、釜石湾漁協女性部メンバーとともに、先進地である茨城県の大洗町漁協の女性部活動の実態を調査することを企画しました。

大洗町漁協の女性部活動は、地元で水揚げされたカタクチイワシの稚魚「生しらす」の冷凍販売と「かあちゃんの店」という食堂の運営が中心です。

「かあちゃんの店」ができるまでの経緯などを聞き取り調査しましたが、大津波後も再建し、女性部の部員が交代で調理作業に参加するなど、今後の女性部活動を検討するうえでとても参考になりました。



大洗町漁協での聞き取り調査



かあちゃんの店で働く大洗町漁協女性部員

●徳島県鳴門市のワカメ養殖について

岩手大学では、県産ワカメの生産拡大を図るため、養殖作業の省力化の研究開発を進めているところですが、収穫作業の先進事例を参考とするため、鳴門市の産地である徳島県鳴門市を視察しました。

鳴門市の北灘地区では、ワカメを船上では刈り取らず、養殖ロープごと漁港に船で運び、岸壁上で立ったままの姿勢で刈り取り作業が行われていました。養殖桁の長さが短く、ワカメもあまり大きく成長しないうちに収穫するので、この方法が定着しているようです。

家族総出で楽な姿勢のまま陸上で刈り取り作業ができ、養殖ロープも綺麗に丸めてしまえることから、このような方法を岩手県でも検討してみたいと思います。



船にロープごとワカメを引き上げる



ワカメを岸壁に引き上げて刈り取る

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割75-1
岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト
TEL:0193-55-5691 (代表) / FAX:0193-36-1610
E-mail:kamaishi@iwate-u.ac.jp
URL:http://www.iwate-u.ac.jp/reconstruct/kamaishi/

Information

「岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト」竣工及び「岩手大学三陸水産研究センター」設置記念式典の開催

岩手大学は、平成25年4月に「岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト」棟を竣工するとともに、同施設内に「岩手大学三陸水産研究センター」を設置しました。



つきましては、次のとおり、設置記念式典を開催します。

日時：平成25年5月11日(土) 13:30~17:00
場所：岩手大学三陸復興推進機構釜石サテライト (釜石市平田3-75-1)

一次 第一

- ・釜石サテライト開所式 [13:30~14:05]
- ・記念講演会 [14:10~14:55]
講師：山内 皓平 愛媛大学南予水産研究センター長
- ・施設見学 [14:55~15:20]
- ・祝賀会 [15:30~17:00]

お問い合わせ先 岩手大学 三陸復興推進室 TEL 019-621-6629

編集後記

平成25年4月、岩手大学は大船渡エクステンションセンター、三陸水産研究センター、農学部附属動物病院新棟を新たに設置しました。2つのセンターはそれぞれ大学の岩手県沿岸南部での復興支援活動拠点、漁業の6次産業化へ向けた研究拠点となり、三陸復興の後押しを進めます。動物病院新棟は、最新の診療機器を備えた小動物診療用の動物病院と岩手大学・東京農工大学共同獣医学科の講義実習室が入る複合施設として、地域の動物病院と連携を図りながら、東北地方の獣医療の中核施設として役割を果たしていきます。